

学習したことを生かして

「モチモチの木」

さいとう 斎藤

りゅうすけ 隆介

めあて

霜月二十日のばんとは、どんなばんなのかを読み取る

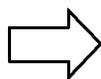
霜月二十日のばん

モチモチの木

- ・ 灯がともる
- ・ うしみつとき
- ・ 神様のお祭り
- ・ ゆめみてえにきれい

見ることのできる人

- ・ 一人の子ども
- ・ 勇気のある子ども



- ・ じさまも見たことがある
- ・ おともも見たそう

豆太

- ・ 「それじゃあ、おらは、とつてもだめだ」
- ・ ちっちゃい声で、なきそうに言った
- ・ 自分も見なかったけど、とんでもねえ話だ
- ・ ぶるぶるだ
- ・ 昼間だったら、見たい
- ・ はじめっからあきらめた

豆太の気持ち

- ・ こわくてできない。
- ・ じしんがない
- ・ 見たいけど、見られない。

5 / 16 時間目 指導略案
活動のねらい

使用するワークシート…

霜月二十日のばんのモチモチの木や豆太の様子を読み取らせ、豆太はどんなことを思っていたのかを想像させる。

1 豆太がどんな子どもだったかを振り返る。

2 「霜月二十日のばん」を音読し、灯のともったモチモチの木の様子と、それを見ることが出来る条件について読み取る。

「山の神様のお祭り」とはどんな祭りなのかを確認させる。
灯のともったモチモチの木の様子について文中から抜き出す。

じさまとおとも見たモチモチの木を見ることが出来る子どもについて、文中から抜き出す。

3 霜月二十日のばんに、豆太の取った行動について考える。

豆太の取った行動が分かる言葉を抜き出す。

【発問】山の神様のお祭りについて豆太はどんなことを思ったでしょう。

豆太の気持ちを想像する。
想像した豆太の気持ちについて、全体で交流する。

じさまの豆太に対する気持ちも押さえながら、見たいけれども、見れない豆太のおくびょうなところをとらえさせる。

4 「霜月二十日のばん」の豆太に手紙を書く。

「はじめっからあきらめて」寝てしまった豆太を勇気付ける手紙を書かせる。

5 心に残ったことや思ったことを付せんに書き、本時のまとめをする。

評価 霜月二十日のばんのモチモチの木や豆太の様子を読み取り、豆太の気持ちを想像することができる。